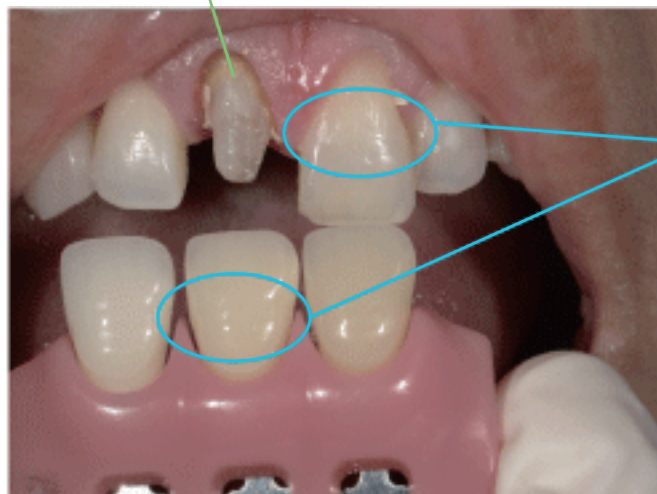


正確な色調再現可能なシェードテイク画像を撮影するには

マクロレンズ装着の一眼レフ、または 歯科用カメラ アイスペシャル CIV エクストラファインモードなどの画像(データサイズ最低 1 M以上)が必要

※ 支台歯の色調が確認できる状態



目標歯とシェードガイド(一般的な VITA クラシカル)は

切縁を 1 mm 程度の近さでそろえてできるだけ同一平面上に配置

シェード選択は歯牙中央から歯頸部寄りの部分の色を見る(内部の象牙質の色の判別が最重要なので切縁の色は無視)

A シェード内から感覚的に近い濃さと思われた 1 本に加え、それより明るいシェードと暗いシェードガイドの計 3 本で撮影

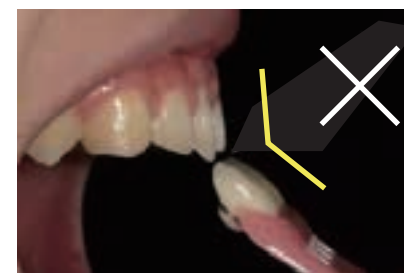
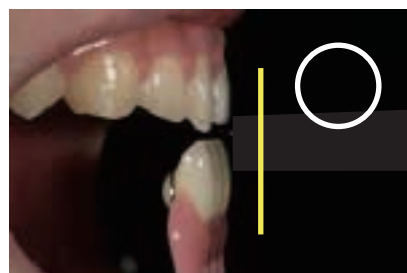
基本的に A のシェードから選択。よほど他にピッタリなシェードがあれば追加撮影。

ただし、A シェードのみでの並びは必須です。



ガイドの番号が入るような写真、
(使用シェードを別に伝達でも OK)

同一平面状とは



横からみて目標歯と一直線上にガイドが配置されている

札幌医届出(医)第 147 号

OKUMURASHIKEN

有限会社 奥村 歯 研

〒063-0827 札幌市西区発寒 7 条 5 丁目 11-21
クレストコート 2-B

TEL(011)688-8149 FAX(011)688-8047

E-mail okumurashiken@gmail.com Mobile phone 090-2055-5649

正確な色調再現可能なシェードテイク画像を撮影するには

プラスワンポイント

状況が許せば、歯牙表面はすぐ白く乾燥してしまうのでできれば治療に入る一番最初にシェードテイクを行うことが望ましい
チェアは完全に起こした方が撮影しやすい

シェードテイクの流れ(例)

- ①口唇をめくりホルダー(松風ガミー4種類)の中から およそ近い色をチョイス
口角器は最初から使用しない(歯牙の乾燥防止)
- ②再び口唇をあげてシェードガイド A1,A2,A3,A4の中からなんとなく近い濃さを3本選択
- ③ガミーホルダーに選択したシェードガイドを装着
- ④口角器を装着(歯肉まで見えれば問題ないので使用しなくてもOK),
軽く口をあけてもらいシェードガイドを目標歯と同一平面 上に配置→撮影(撮影箇所は状況に応じて)



注 例えば作製部位が右上小白歯として、反対同名歯が天然歯の場合、
左側の小白歯部位での撮影も行うと非常に参考になる



同一の歯牙でも乾燥によって見え方が大きく違う
(左潤っている状態、右乾燥状態)



下顎撮影の場合、被蓋関係等によってガミーホルダーを装着すると
同一平面上のガイド配置が困難な場合、
持ち手を横に束ねてテープ等で固定すると撮影しやすい場合もある



適していない写真

デジタルの解像度が低かったり、シェードタブが1本のみであったりするためシェードガイドと
どの程度違う色なのか判断できない
目標歯とガイドが同一平面上にない

2

札幌医届出(医)第147号

OKUMURASHIKEN

有限会社 奥村 歯研

〒063-0827 札幌市西区発寒7条5丁目11-21
クレストコート2-B

TEL(011)688-8149 FAX(011)688-8047

E-mail okumurashiken@gmail.com Mobile phone 090-2055-5649